

公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議 議事録

会議名	第3回 公共施設マネジメント実施計画見直し検討会議	
日時	令和3年8月5日(木) 午後2時30分から午後4時30分まで	
開催場所	蒲郡市役所 305 会議室、オンライン会議システム Zoom	
出席者	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学教授 高野雅夫 (Zoom) ・名古屋大学教授 恒川和久 (Zoom) ・愛知工業大学教授 安井秀夫 (Zoom) ・(髷) まちの縁側育くみ隊 代表理事 名畑恵 (Zoom) ・(株) 三菱総合研究所 主席研究員 川口荘介 (Zoom) ・企画部次長 牧原英治 (代理) ・総務部長 平野敦義 ・建設部長 鈴木伸尚 ・教育部長 嶋田丈裕
	事務局	<p>公共施設マネジメント課</p> <p>小田次長 高橋課長 上田課長補佐 星野</p>
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画第1章～第3章(案)について ・まちづくり市民フォーラムの概要について 	
<p>1 開会</p> <p>(恒川会長) 開会</p> <p>2(1) 実施計画第1章～第3章(案)について</p> <p>(事務局) 資料1 実施計画第1章(案)について説明</p> <p>(川口委員) 「1-2 計画の位置づけ」において、公共施設総合管理計画と実施計画はどう関連するのか。実施計画の方が下位計画にあたるのか、それとも並列の計画なのか。</p> <p>(事務局) 総合管理計画の関連性は掲載すべきと考えている。今後修正をしていく予定。</p> <p>(恒川委員) 1章のボリュームが多いように感じる。前回策定時のアンケート結果や若者会議などは掲載しなくてもよいのではないか。一方で、昨年有識者会議で検討した内容については、今回の改訂の経緯も含め掲載すべきだと感じる。</p> <p>(事務局) 昨年度、有識者会議よりいただいた様々な意見については第2章に抜粋して掲載している。「1-6 市民意識と公共施設のあり方」では、市民意識を意図的に掲載している。ボリュームが多いというのは事務局でも感じており検討したい。</p>		

- (恒川委員) 今回は計画の見直しであるが、前回載せた内容を必ずしも載せなければならないということはないと思う。最初に計画を策定した前提条件などはあるが、今回はあくまでも改訂であるので改訂の趣旨が明らかになった方がよいと感じる。
- (川口委員) 蒲郡市は前回の策定時より公共施設量が減っている。全国平均では施設量が増えている状況にある中で、蒲郡市は改善しているというのをアピールしてもよいと思う。
ボリュームが多いという点に関しては、市民意識調査による施策の満足度と重要度が今回から追加となっている。この満足度は、「第3章 マネジメント目標」に満足度という言葉が再び出てくる伏線になっているため残した方がよいと思う。ただし、満足度の定義が分かりにくいため加筆した方がよい。
- (事務局) 35ページにマネジメントの目標設定について記載している。床面積の縮減や費用は具体的な数字を記載できているが、満足度に関しては「向上させる」のみしか記載していない。満足度を図る指標はたくさんあり、どの指標を向上させるかまでは現状記載できていない。最終的にはもう少し具体的な内容で記載したい。
- (川口委員) 蒲郡市は2年に1度、市民意識調査を実施しているという強みがある。これを利用し、指標化した具体的な満足度としてもよいのではないかと感じる。
- (恒川委員) 2年前の市民意識調査では、市民の公共施設への満足度は上がっているのか。公共施設の整備が、重要度においても低い施策と市民が感じているようなら、それも記載してもよいかもしれない。
- (事務局) 直近のデータで満足度がどう変化しているのか調査してみる。
- (事務局) 資料1 実施計画第2章(案)について説明
- (安井委員) デジタル化について、デジタル化を今までの記載に付け足していくといったニュアンスになっているが、情報ツールが変わるというだけでなく、社会が2030年に激変することを見据え、公共施設がどうあるべきかを大項目で記載しておいた方がよい。そもそも施設自体が必要なくなってしまうかもしれない。また、人口減少を今後見込んでいるが、デジタル化が進んでいる町は、反対に人口が増えるかもしれない。そういった視点も大項目でいれておくべき。

- (恒川委員) 今回は、計画の改訂ということで、前回の計画に付け加えている部分が多い。本当は、項目自体から見直すべき。ただし、前提となる基本方針の改訂は含んでいないので、5つの項目に関しては変えていない。安井委員の指摘は、基本方針に匹敵するほど大切な視点ではないか。逆にいうと5つの項目さえ見直したら、公共施設のあり方が全然変わってくるのではないかと思う。
- また、有識者会議の報告書も記載しているが、実施計画と有識者会議の報告書で考え方が異なり、今後の方針が2つ示されているように感じてしまう。
- そのため、項目などを一度抜本的に見直してもよいのではないかと感じる。
- (事務局) デジタル化については、各項目で当てはめるのではなく、もう少し大きな視点で整理をすべきなのかと感じる。また、項目の変更については検討する必要がある。
- (安井委員) すぐにデジタル化が進むという訳ではなく、将来への提言として1つ項目を作っておくべきなのかなと感じていた。
- スマートシティについて蒲郡市の姿勢を示すべきか。
- (恒川委員) 上位計画である総合計画では、蒲郡市がデジタル化についてどこまで対応していくのかが示されているのか。そこに記載がなく、公共施設のみデジタル化を推進していくのはおかしな話のようにも感じる。
- (事務局) 総合計画には、「行政のデジタル化」というページがあり、行政手続きのオンライン化の推進、データ利活用の推進、デジタル技術を活用した業務改革の推進が掲げられている。ただ、先ほど指摘いただいた公共施設の部分まで踏み込んだ記載はない。
- (高野委員) 有識者会議報告書に市民参加のページを多く割いた。この中から実施計画の本文ページに活用できるものもあるはず。
- (恒川委員) 報告書が参考としての扱いのように感じる。反映できるものを本文に記載してほしい。
- この数年で変わったことは、市民の参加を促して公共施設の再編を取り組んでいこうとなったこと。また市長の思いにも沿っている。それなら、全面に出てもよいように感じる。
- (川口委員) 報告書に関して修正されたであろう箇所が、22ページに5行ほどしかなく、また内容も盛りだくさんである。ここから

	デジタル化で項目を分け、ボリュームを増やしていくのもよいと思う。
(事務局)	書き方を工夫していきたい。
(平野委員)	「2-3 変化する公共施設の役割を踏まえた施設のあり方」を「1-6-5 全市利用型教育施設のあり方に関する市民アンケート調査結果」に記載し、デジタル化については20ページのキーワードに新たに追加する方法でどうか。
(恒川委員)	基本方針に基づいた5つのキーワードと、その後の社会の動きや報告書、市民の意見を踏まえ新たなキーワードが追加されるのであればよい。
(事務局)	資料1 実施計画第3章(案)について説明
(川口委員)	3つの目標設定で、①と②の関係性について、②560億円の費用が足りなくなる想定であり、その費用を捻出する手段として①の床面積の縮減がある。②の560億円の費用捻出が上位目標であり達成できれば、①床面積の縮減は不要となる。間違いではないと思うが、①②の関係性に違和感がある。また、③の満足度については先ほども述べたが、定量評価をする必要があると思う。
(恒川委員)	確かに①は②を達成するための手段だ。560億円の費用捻出というのは床面積の縮減とは異なり、目標として分かりにくいということも感じる。 2章の方針とも関係する部分だが、③満足度について、本来は「公共サービスに関する満足度の向上」ではないか。極端なことをいうと施設自体がなくなったとしても、公共サービスに対する満足度が向上するのであればよいと思う。施設に対する満足度を向上させるという記載からはやや後ろ向きなニュアンスを感じるので、施設そのもののあり方を検討し公共サービスの満足度を向上させるという方向の方がよいのではないか。
(安井委員)	維持管理費のうち人件費のデータは分かっているのか。
(事務局)	出すことはできるが、目標設定に使用した1,705億円はいわゆるハードにかかるもののみしか計上されていない。人件費については、管理運営の合理化により減らしていく部分として考えている。
(安井委員)	その考えももっともであるが、今後のDX化によって人件費と

	<p>いうのは減らせる部分だ。サービスの自動化によって住民たちが自身でこなしていくことを啓蒙することでスリム化できるものだと思う。</p>
(平野委員)	<p>デジタル化によって人のやることは減るが、その分それ以外の政策的な検討の部分等に人手を割けるとというのが、現在市がデジタル化に対して考えていることだ。人が減らせるとは言い難い。</p>
(安井委員)	<p>北欧は国土が日本の5倍（人口が5分の1）であるにもかかわらず、豊かな生活を送ることができるのは、市民が人口減少に対して危機感を持っており、行政に過剰なサービスを求めないというルールができていくことが一つの要因だと考えている。長い目で見れば、単に人件費を減らすということではなく、行政サービスの質を変えていくといえるのではないか。</p>
(名畑委員)	<p>市民参加型で取り組みを進めてきた経緯があるので、公共空間の協働型マネジメントを項目立ててもよいのではないか。個々の施設を単体で考えるだけでなく、まちづくりとして面的に検討している部分がある。これは満足度や効率化、合理化にもつながる部分だと思う。2章もしくは3章どちらで記載すべきか悩ましい部分ではあるが。</p>
(恒川委員)	<p>2章、3章どちらにも入れるべきだと私は感じた。市民参加による公共施設マネジメントという考え方は、施設そのものについてだけでなく公共サービスのあり方にもつながっていく。考え方のひとつとして示してもよいのではないかと思う。</p>
(嶋田委員)	<p>どこかに考え方を入れるべきかと思う。2章か3章かなのかは悩ましい部分だ。人件費については施設が複合化すれば建物管理者としての人件費は減るが、ソフト面（サービス）に対応する人件費もある。減った分をソフト面に回すという考え方は、公共施設マネジメントの考え方にも繋がる部分だと思う。</p>
(恒川委員)	<p>財布（支出元）は同じだが、項目（利用用途）が異なるので難しいところではあると思うが、全体で考えていくという考え方は何等か記載してほしいと思う。</p> <p>図表3-2（目標達成のイメージ）について、560億円（22.4億円/年）足りない、現在支出している費用の約3倍必</p>

	要だということだが、それを費用の縮減と収入の増で賄うという計画になっているかと思う。現実的に可能なのか。
(事務局)	前回の検討会議で、個別施設計画の積み上げをもとに縮減額の見込みをお示しした。ほかに基金の積み上げや様々な補助金（学校整備・まちづくり）を活用することで何とか対応していきたいと考えている。
(恒川委員)	以前、費用面の目標達成の図について説明を受けた時よりも分かりやすくなっていたが、本当に達成できるのか根拠的な部分を書いておくべきではないかと気になっている。4章で触れられるのか。
(事務局)	4章については個別施設計画の内容に加えて、もう少し検討する必要がある部分について記載する予定。具体的な数字を出すことは難しいが、先ほどの必要額と個別施設計画の積み上げの差額の根拠にはなるかと思う。
(恒川委員)	基金をどれくらい見込んでいるだとかそういった目標達成に向けた根拠的な部分に触れなくていいのかと気になっている。
(平野委員)	財源のところはもう少し検討する。
(事務局)	先ほど、②費用捻出の手段として①床面積縮減の目標があるというやりとりがあったが、事務局としては、市の人口規模を踏まえると現在の施設規模では将来に過度な負担を残してしまうという思いがあり目標のひとつとしている。費用捻出のための単なる手段とは考えていないので、今の記載方法となっている。
(川口委員)	①の目標についても重要であるので取り下げるべきではないが、②の目標が大きな概念的なものとしてあって、①のような手段的な目標がいくつか連なっていくという構成が正しいのではと思い、発言をした。
(恒川委員)	私も同様のことを考えていて、560億円のうち床面積3割とはどれくらいを占めるのかや、ほかの手段について計画上に具体的な数値の記載がないのに、①の目標だけ記載されているのに違和感があった。書くこと自体に問題はないと思うので、市で検討してください。 1章から3章について、その他ご意見はなさそうなので、適宜修正してください。

2(2) まちづくり市民フォーラムの概要について

(名畑委員) 市民フォーラムの概要について報告

(恒川委員) 先ほどの2章・3章の話ではないが、このフォーラムで市民への投げかけができたかと思う。これを実施計画につなげることができるとうい。

3 その他

- (事務局)
- ・ 次回検討会議の日程について
 - ・ 視察の日程について